

3 土屋と土屋氏

(1) 土屋のあゆみ

私たちの土屋は、今ここに突然と出来上がったものではありません。

そこには幾年かの長い年月を経て、その歴史をつくり出してきました。ここに土屋の歴史を時代とともに探っていきながら、政治・文化等について考察しました。

なお、時代区分については、いわゆる中央でいう時代とは多少のズレがあると思いますが、この点に注意しながら考察してみました。

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
原始時代 (紀元前100 ～紀元350) 縄文式・ 弥生式文化	原始時代の土屋の人々は、原始石器や農耕生産技術が未熟で、主として自然物(くり・どんぐり・かし・しい・あけび等の木の実や・田螺・猪・野うさぎ・野鳥類)を採集または捕獲して、生活の大部分を委ねていたと思われます。こうした原始古代人の生活跡であったと思われる場所が、土屋公民館の北側にあります。そこは山と山の間に挟まれた谷(やと)地で、近くに小川が谷戸の南を流れ、古い歴史を思わせる田んぼが存在します。 また、近くには「字源水」と称するところがあることからして、水源の豊かな所であったと思われます。ここで彼らは、北側の山裾に南に面して住居を造り、稲作を営みました。昭和32年(1957)には公民館北の竪穴住居らしき所から弥生式の比較的大きな壺が発見され、当時平塚市に寄贈しました。昭和37年(1962)にはこの付近から弥生式土器(土沢中学校に保存)1個と、横穴古墳群と思われる所から人骨が発見されました。 このように住居跡・土器等が土屋地区内には多数存在しており、原始時代には、すでにこの地に人々が居住していたことが実証されたと思われます。今後土屋地区内に存在するこのような事例を、順次調査のうえ記述することとします。 (参考) 遠藤原・小熊原地区には、住居跡・土器等が多数存在します。
大和時代 (350～ 710) 古墳・飛鳥・ 白鳳文化	また、寺分鷺坂の東方の台地(向原)には、縄文から近代にかけての「複合遺跡」があります。
奈良時代 (710～ 794) 天平文化	6世紀に入り、大和朝廷内では一級実力者大伴・蘇我両氏は、屯倉(みやけ)〔皇室の直轄領〕の設置に積極的であって、国造時代から律令時代にかけて相模の国には、田部が開拓のため実際に働いていたと思われます。645年の大化の改新以後、郷制では土屋は大住ノ郷和太郷に属しており生業の主力を成す、米・麦・あわ・ひえ・芋類の栽培が盛んになったと思われます。 またこの頃、鷺坂・打越・上土屋窪・ヨウジ・小熊・大庭遺跡、根岸

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
奈良時代	・寺窪・遠原・駒ヶ滝・愛宕下・源水谷横穴・十二社横穴古墳等数多くの遺跡・古墳が発生しました。
平安時代 (794～ 1185)	平安初期（荘園時代）には、土屋は粕屋庄に属していました。古代国家の権力であった貴族や寺院や神社は、公の土地を自まにする体制、つまり荘園（荘国）を拡大強化していくことにより、力を得ていましたが、そのことが自らを崩壊する矛盾には気がつきませんでした。律令国家の権力者たちは、こうして自ら培ったつむりの武士団（地方政治の緩みの進行する中で名主〔みょうしゅ〕は名田〔みょうでん〕の自衛のため、荘官は荘園の維持のため武装化して武士団を形成しました。）によって崩壊され、力の交替を余儀なくされていきました。 土屋三郎宗遠の父、中村莊司宗平もその一人であり、荘官として常陸の笠間から赴任してきた平経平の子です。その中村氏一党はのちに述べるとおり鎌倉幕府樹立のために大きな影響力を及ぼすことになりました。土屋三郎宗遠（1128～1218）は、すでにこの時代は土屋郷に居住しており在名をもって家号として、糟屋庄土屋郷の郷士（名主）〔みょうしゅ〕となりました。 1180年8月23日に源頼朝は以仁王（もちひとおう）の綸旨（りんじ）を奉じて挙兵し、石橋山において平家方と合戦し敗退しました。しかしその年の10月に鎌倉に入府して、東国における武家政権の第一歩を印し、鎌倉武家政権への樹立に大きな橋渡しとなりました。ここに土屋宗遠・土肥実平ら中村氏一党及び岡崎・真田・三浦一党の活躍が目立ちました。また、この頃に大乘院が領主宗遠によって再建されたと思われる。
鎌倉時代 (1185～ 1333)	鎌倉開府に至ってからは、鎌倉の御家人になった土肥実平・中村宗平・土屋宗遠ら中村一党の有力御家人が、源平合戦などで活躍しました。これは吾妻鏡（東鑑）・源平盛衰記等により明らかです。1185年平氏一門は壇ノ浦合戦により完全に滅亡しました。鎌倉3代の間は、土屋一党は強力な御家人のひとりとなりました。宗遠は地頭職になり、義清は大学助に任ぜられました。しかし北条氏の独裁が強化され、御内方と外様との対立が激化し、宗遠は晩年になり「西浜騒動」「梶原事件」「和田合戦」（1213）で次々につまずき、晩年は不運でした。2代目宗光（左衛門尉）・3代目光時あたりまでは、将軍供奉兵員でしたが、宗遠の失策等があり郷土の小豪族となってしまいました。そしてついに1333年に楠木正成・足利尊氏・新田義貞等の豪族の蜂起により、幕府は滅亡へと追い込まれました。1333年安倍河原の合戦・鎌倉合戦には新田氏に、また1336年の山崎の戦い・湊川の戦い・金ヶ崎の戦い

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
鎌倉時代 (1185～ 1333) 鎌倉仏教	いには足利氏にそれぞれ組し、乱世の中をさまよい続けました。 宗遠は1213年8月5日に90才でこの世を去りましたが、その間立派な財産を残しました。特に治承年間(1177～1180)には、星光山弘宣寺(大乘院)を1178年に再建し、1204年には土屋山無量寿院(芳盛寺)を建立しました。また、郷社熊野神社を紀州熊野権現から勧請(かんじょう)したのもこの頃でした。 1185年、土屋宗遠らが「平家追討」に参戦した帰路、紀伊ノ国の熊野権現に詣で、熊野を勧請した時、その守護役に当地の武士「蓑島氏」を招き入れたとも伝えられています。現在も熊野神社を取り囲むように「蓑島氏」が一行になって、その北側を占めています。 3代將軍実朝の私家集「金槐和歌集」に、土屋三郎宗遠について五首あります。 また、土屋郷は土屋庄となり、寺分・庶子分・惣領分・五分一(中井町)に分割(分領)されました。寺分は大乘院・阿弥陀寺(現在の芳盛寺)・正蔵院等の寺領に、庶子分は養子の義清(岡崎義実の次男)の所領に、惣領分は宗光の所領としてそれぞれ分領されました(土屋の分村3分割)。 五分一(現在の中井町)は、貞永式目の第32条により、土屋氏の内で、過失無くして廃嫡された人の遺領と思われます。 また宗遠は、生沢村(大磯町)の地頭職にもなりました。ここでは生沢の社内の桑を取ったと訴えられ、將軍頼朝の御前で対決しましたが、宗遠の行為は排除されました。法に定められた地頭の権限は、土地を管理し年貢の徴収を行うものの、得分は反別5升の米のみであり、神社は免田などをもち年貢や公事の徴収を免除されていました。
南北朝 室町時代 (1333～ 1477) 北山文化 東山文化	1386年に円海が大乘院を中興し、正蔵院もこの頃創建されました。1391年の明德の乱に山名方に加勢し、京都二条大宮付近の戦いに11代宗貞をはじめ50余人が討死しました。1399年の応永の乱には、大内氏に組し大森氏の小田原城を攻撃し、1416年10月には上杉禅秀の乱が起こり、関東一円の動乱が始まりました。西湘地方の曾我・中村・土肥・土屋の諸氏は、禅秀の味方につきました。1418年に禅秀の乱が終わり、公方足利持氏は大森頼春の功を賞し、土肥・土屋の領地を取り上げ頼春に与えました。この頃、頼春は小田原城を築いたと思われます。 これ以後の「土屋氏」は、先祖よりの地「土屋」を離れ、甲斐ノ国(現在の山梨県)や伊豆(現在の静岡県伊豆地方)に逃れたものと思われます。現在もその地方には「土屋姓」が多く、特に、山梨県塩山市の恵林寺の表裏には、それぞれ「表土屋氏」と「裏土屋氏」が恵林寺を守護

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
南北朝 室町時代	するような形で、居を構えておられます。ここに土屋氏は「武田二十四将」として生き長らえることになりました。
安土・桃山 時代 (1477～ 1600) 東山文化 安土・桃山 文化	1495年に北条早雲は小田原城を落し、1497年に城主大森藤頼が逃れ落ちた真田城をも落城させました。時に早雲は65才でした(1519年88才で没)。この時、早雲は井ノ口から土屋・遠藤原・欠ノ上へと通じる通称「小田原街道」を通過しました。そしてその通過の際に麦畑に火を放ち暴れまわって行ったと伝えられています。その時の戦死者を葬ったと思われる塚が、その周辺に多数存在しています。大乘院も、この時戦禍に遇ったといわれています。 また、この時土屋は後北条氏の領有地になりました。 早雲は88才で没するまで、相模中原より扇ヶ谷上杉勢を追い、相模岡崎城の三浦道寸義同と相模守護職の三浦氏を滅ぼして、相模一国を平定し、戦国大名へと成長を遂げました。その子氏綱の代に武蔵国へ侵出し、さらにその子氏康の代には関八州にその威を張るに至りました。上杉謙信・武田信玄が相次いで小田原へ来襲しましたが、蹴散らし合戦すること、数十回に及んで敗れることがありませんでした。 1502年早雲は、布施康貞を吉沢の「台」に配し、土屋・吉沢・出縄・高根等を制圧し、荘園制を打破し領主と農民の一円知行制を布き分国に家臣団を配しました。 小田原北条時代に入り、土屋寺分は神田次郎左衛門・土屋庶子分は石巻正寿・土屋惣領分は早雲寺領・土屋五分一は石巻下野守とそれぞれの知行所となりました。 1575年に長篠の戦で、甲斐ノ国「武田氏」は「織田氏」に敗れ、その家臣たちは他の国へと逃れた者も多かったと思われます。 この土屋にも甲斐ノ国「武田二十四将」として名を連ねたと思われる「秋山」「石黒」「大野」「山本」「原」等の類似する「姓」があります。また、そういう人たちとともに「土屋氏」は自ら「姓」を替えて、つまり「改名」して先祖の地「土屋」に返り咲いたことも考えられます。
江戸時代 (1600～ 1867) 元禄文化 上方文化 化政文化	1590年の小田原の役により後北条氏は、織田信長に続いて各地を平定した豊臣秀吉により滅亡しました。これに代わり関八州を領したのは、徳川家康でした。1591年家康はその居城を江戸に定めたことにより、小田原の繁栄は江戸に移ってしまいました。初代城主に任ぜられたのは、三河以来の功臣大久保忠世で4万石を領しました。歴代の城主は次のとおりです。大久保忠世(初代)4万石・大久保忠隣・阿部正次・稲葉正勝・稲葉正則(老中)4万石・稲葉正通・大久保忠朝・大久保

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
江戸時代 (1600～ 1867) 元禄文化 上方文化 化政文化	忠増・――五代――大久保忠真（老中）・大久保忠良（14代）でした。土屋村は分村形態となっており、各分村区毎にその領主が置かれました。そして、土屋村は初め天領と旗本三好氏・同横山氏の采地（さいち：領地・知行所）でしたが、のちに分割されて旗本柳沢氏・同倉橋氏・同加藤氏・同大久保氏・同窪田氏・同長谷川氏・同田沢氏が知行し、明治に至りました。 1615年ころ、和光山醫王院妙圓寺が開創されました。 「相模国郷帳」によれば、土屋惣領分高480石4斗5升8合、土屋庶子分高431石9斗1升4合、土屋寺分高711石4斗8升3合であり、水田耕作地は地形的に谷戸田が多いが、土屋寺分には金目川右岸の低湿地の水田がありました。 「相模国風土記稿」によると、1841年（天保12年）の戸数は189戸でした。 また、矢沢の天宗院には、田沢氏の分骨を納めた墓碑が5基ほどあり、惣領分の芳盛寺にも窪田氏の墓碑があります。小熊の大乗院日牌堂奥に横山氏の墓碑があり、寺分の正藏院の右側には大久保氏の墓碑がそれぞれあります。
明治時代 (1867～ 1911) 文明開化	1867年の大政奉還によって、政権は幕府より王政に復古され、近代化の第一歩を踏み出しました。1871年（明治4）廃藩置県となり、藩主の代わりに府知事・県令を置き小田原県が成立しました。その後、韮山県を合併して足柄県が成立しました。 1868年（明治元年）神仏分離令が発布される。 1873年（明治6年）6月9日大乗院に温知館学校ができる。 1876年（明治9年）神奈川県に編入する。 1889年（明治22年）市町村制施行により、旧土屋村と旧上吉沢村・旧下吉沢村が合併して、各村の一字を結合して「土沢村」を成立する。 1892年（明治25年）土屋小学校が字八面に校舎を移転改築する。 1893年（明治26年）土沢駐在所が大磯警察署管轄下で発足する。 1896年（明治29年）中郡土沢村となる。 1897年（明治30年）「中郡勢誌」によると、土沢村の人口は3353人、戸数445戸であった。 1899年（明治32年）早田妙圓寺に中郡高等土屋小学校を開校する 1908年（明治41年）尋常高等土屋小学校と改称する。
大正時代 (1911～	1914年（大正3年）第一次世界大戦に参戦 1923年（大正12年）土屋尋常高等小学校と改称する。

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
大正時代 (1911～ 1926) 大正 デモクラシー	9月1日(土)午前11時58分にマグニチュード7.9の関東大震災が発生し烈震のうえ津波と火災により大きな被害を出しました。丘陵地帯である土沢村の集落を襲った大地震は、全壊239戸、半壊194戸、破損55戸で、被害戸数は488戸を数え、土沢村の全戸数が被害を受けました。なお、死者20名、負傷者18名を出しました。 当時の主産業であった「養蚕」(おかいこさん・おこさん)も潰滅に等しく、蚕室の被害も全半壊を含めて148戸で、これは蚕室の全戸数でした。 1920年代の戦後恐慌と天災の二重打撃により、人々の不安はつのるばかりであったと思われます。
昭和時代 (1926～ 1988) 世界戦争 敗戦 民主国家 産業経済 高度成長 公害問題	1926年(昭和元年)土沢村の戸数が503戸となる。 1932年(昭和7年)4月1日平塚市政が施行される。 1935年(昭和10年)11月県道南金目・中井線(現県道77号線)が開通する。 1939年(昭和14年)第二次世界大戦勃発する。この頃婦人会・青年団の活動が活発になる。回覧板の使用が頻繁になる。 1941年(昭和16年)太平洋戦争が始まる。 国民学校令施行により、土沢村土屋国民学校と校名を改称する。 1944年(昭和19年)から1945年(昭和20年)4月にかけて、鷹取山北側から琵琶の山麓に、地下要塞さながらの幅1m、高さ2mほどの無数の洞窟が掘られる。太平洋戦争末期に、本土決戦が叫ばれ、土屋の住民も勤労奉仕として、婦人や老人それに小学生までもが、これに狩り出される。現在は、ゴルフ場でその面影はない。 1945年(昭和20年)7月16日夜半、アメリカ空軍機(B29)の空襲により、平塚市街と寺坂の一部が焼土と化し、7200戸の家が焼け出される。 8月7日午前10時過ぎ、アメリカ空軍艦載機(P51)の機銃掃射により、大乘院が全焼する。(当時大乘院には、横浜市富岡小学校児童数十名が昭和19年(1944)7月21日から疎開し、なおかつ軍隊も駐屯していました。なお、疎開児童は、焼け出されて惣領分の芳盛寺に移りました。) 土屋ではこの他に、寺分四つ角付近において、2名の犠牲者がありました。 8月15日終戦・敗戦となる。 12月連合軍の指示で始まった農地所有制度の改革(農地改革)が実施される。 1946年(昭和21年)新憲法が公布され、新時代の幕開けとなる。

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
昭和時代 (1926～ 1988) 世界戦争 敗戦 民主国家 産業経済 高度成長 公害問題	[国民主権・平和主義(戦争の放棄)・基本的人権の尊重] 1947年(昭和22年)5月5日中郡土沢村立土沢中学校が開校する 土沢駐在所が秦野警察署管轄下になる。 寺分の鈴木医院が開業する。 1948年(昭和23年)4月22日土沢村農業協同組合が発足する。 1954年(昭和29年)7月1日神奈川中央交通(株)が、平塚～大 秦野間に井ノ口経由の路線を開通する。 1956年(昭和31年)9月30日土沢村(戸数605戸・人口39 71人・面積11.87km²)が、平塚市に合併する。この時、土 沢農協内に市役所の土沢出張所が設置される。 平塚市立土屋小学校・平塚市立土沢中学校と改称する。 土沢駐在所が平塚警察署管轄下になる。 1958年(昭和33年)座禅川橋が完成する。 1959年(昭和34年)土沢中学校の木造2階建て校舎が完成する。 1961年(昭和36年)市道15号線が開通する。 1962年(昭和37年)平塚カントリークラブ(18H)が営業を開 始する(平塚富士見CCの前身です)。また、ゴルフ場建設に協力し た感謝の意味で、湘南観光開発(株)が地元へ建物を寄贈する(平塚 市七国荘の前身です)。 土沢村農協で、有線放送電話装置を設置する。 1963年(昭和38年)5月20日平塚市立土屋幼稚園(2年保育) を開園する。 土屋小学校の校歌が制定され、創立90周年記念式典が挙行される。 1965年(昭和40年)平塚富士見CC(36H)ができる。 市議会に、土屋霊園建設特別委員会が設置される。 1966年(昭和41年頃)県道南金目・中井線が完全舗装される。 平塚市中央農業協同組合土沢支所となる。 1967年(昭和42年)人増に富士見台病院が開院する。 県住宅供給公社が、字堀切一帯の39.7haの土地(主に山林)を 買収する。 土沢中学校の体育館兼講堂が完成する。 1968年(昭和43年)3月土屋公民館が設置される。 1969年(昭和44年)旧土屋小学校前に県道横断歩道橋ができる。 1970年(昭和45年)この頃をピークに、生業のひとつである酪農 が労働力不足・農地減少・乳価の不安定・し尿公害・濃厚飼料の高騰 等の関係で、市内では348戸、4192頭と減少傾向にありまし た。 これに代わり、ビニールハウス栽培が盛んに行われるようになりま

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
昭和時代 (1926～ 1988) 世界戦争 敗戦 民主国家 産業経済 高度成長 公害問題	した。 〔参考〕平塚市の農家318戸・耕作面積401476m² (1980調べ) 平塚レイクウッドカントリークラブ(36H)が開業する。 1971年(昭和46年)7月早田に大江工業の社宅ができる。 1972年(昭和47年)3月2日県立動物保護センターが設置される 6月人増地区がごみ・廃品等の廃棄場所として、昭和54年2月までの予定で計画される。公害問題のひとつとなる。 1973年(昭和48年)観音橋・寺分大橋が完成する。 座禅川河川改修工事が始まる。 土屋幼稚園が1年保育になる。 土沢中学校のプールが完成する。 7月1日霊園建設事務所が設けられる。 9月15日ゴルフ練習場「グリーンパール」がオープンする。 1974年(昭和49年)福祉法人老人ホーム「つちやホーム」が完成する。 4月愛宕山自然公園が開園する。 広報無線放送所も同時に完成する。 7月1日土屋霊園建設のため、管理事務所が設けられる。 9月1日進和学園職業センターができる。 土屋窪橋が完成する。 1975年(昭和50年)東海大学野球場・宿舍が完成する。 3月21日土沢地区自治会連絡協議会が発足する。 土屋橋歩道橋・門前橋・碁打橋が完成する。 この頃、早田に大江工業の社宅ができる。 1977年(昭和52年)土屋小学校が市災害対策危険地区指定となり、この移転問題で具体案が出る。(県住供公社の敷地を借用予定) 大乘院の庫裏(くり)が改築される。日牌堂も改修(トッ 葺)される 4月第1回土沢地区太鼓まつりが実施される。(愛宕山自然公園) 6月中庶子分自治会館が新築される。従来の土屋青年会館は廃館となる。この頃、各自治会で会館設置が進む。 8月惣領分・遠藤原の頭無付近一帯を、市のごみ(焼却済)の処分場に設定する計画が出る。地元は本件について協議に入る。 11月29日土沢駐在所が改築される。 12月市道15号線の改良舗装工事を着工する。 1978年(昭和53年)4月第2回土沢地区太鼓まつりが実施される。(愛宕山自然公園) 10月15日「土屋三郎宗遠公遺跡保存会」が発足する。

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
昭和時代 (1926～ 1988)	弁天橋が完成する。 12月土屋小学校新校舎建築工事が着工する。新改築工事3億7100万円・移転用地費3億2899万円。 1979年(昭和54年)1月琵琶地区に「びわ青少年の家」の設置案が提出される。 2月市道15号線の改良舗装工事が完了する。この時、座禅川橋が架け替えられる。また、滝沢境橋・三笠橋が完成する。 4月字下水上地区に次ぐごみ焼却灰の処分地が、遠藤原地区(頭無付近)に決定する。坪3万円で買収され市有地となる。 4月第3回土沢地区太鼓まつりが実施される。(上吉沢・台) 7月土屋小学校の校舎新築を(株)寿倉組に2億6800万円で請負契約する。校舎新築工事が本格着工する。(鉄筋コンクリート造3階建3320.63m²) 7月15日土屋に存する熊野神社の、優れた伝統と精神を継承し、神社の繁栄と明るい地域づくりを目的として「熊野神社神輿保存会」が結成される。(会員168名) 7月中庶子分の氏神である造化神社(第六天社)が老朽化したため、社と鳥居を改築する案が採択される。昭和54年12月完成予定で、社6尺×6尺・3寸角ひのき材、中宮2尺×2.5尺ひのき材・鳥居丸太造 8月土屋宮農団地の整理事業として、温室3棟(2600m²)の施設工事が着工される。基幹作物としてトマト・キュウリを栽培する。 8月頭無にごみ焼却灰処分地が買収されたが、売買に当たり、大庶子分として38項目の条件を申し入れたが、未解決のまま買収される。今後各自治会の死活問題として、早急に意見統一して解決する必要にせまれる。 9月市定例議会で、仮称「びわ青少年の家」の具体的案件が出る。 11月大乘院本堂の屋根(トタン葺き)が老朽化したため、檀家の寄付と新造成した墓地の分譲(1.5坪15万円)による資金調達を行う。
世界戦争 敗戦 民主国家 産業経済 高度成長 公害問題	この頃、土屋小学校移転にともない体育館兼講堂建設の早期実現及び跡地利用計画について、校舎建設促進委員会を開き、対市陳情団が結成される。 11月9日再陳情した回答が出る。 ①体育館兼講堂建設の促進について(事務当局で検討する。) ②西側通学路の幅員拡張について(地元の了解を得たならば速やかに計画実施する。) ③跡地利用については、複合的公民館用地として、子供会館、成人

時代区分	土 屋 の あ ゆ み									
昭和時代 (1926～ 1988)	用図書館、広場、市営プールに利用したい。(各地区公平な行政をしたい観点から今後十分検討したい) 12月各自治区毎に消火器装置が配備される。 12月11日ごみ処分場問題に絡む交換条件の回答が公示される。 ①中庶子分～遠藤原の農道が市道土屋20号線となる。これに伴い、改良舗装工事が実施される。 12月23日中庶子分造化神社(第六天社)の社が完成する。参道に桜の木を5本植樹する。 1980年(昭和55年)2月28日県水道局平塚貯水池の第1号貯水池が完成する。 4月10日土屋小学校が土屋3004-2番地に移転する。新校舎落成式が挙行される。 4月27日第4回土沢地区太鼓まつりが実施される。(土屋・高神山)この時、太鼓まつりでは、初めて熊野神社の神輿が出された。 5月8日土屋三郎宗遠公一族の墓苑に記念碑を建立し、開眼追善供養を挙行する(遺跡保存会)。碑の表は「源頼朝公源氏再興石橋山参陣八百年記念地頭土屋三郎平宗遠公一族之墓苑」、裏には「昭和五十四年九月十二日浩宮徳仁殿下御一行当所見学記念庚申五年吉日建立(一九八〇)土屋三郎宗遠公遺跡保存会」と、書かれ、石は小松石、高さは台座を含めて約1.5m。 5月17日土屋小学校の屋内運動場兼講堂が着工される。完成は1981(昭和56年2月)予定。 6月20日ごみ埋め立て処分地確保に伴う要望事項のひとつとして、中庶子分～遠藤原線(現在幅員5.5m)の拡幅及び完全舗装、農道の簡易舗装の実施について、今後5年間の予算計画で実行する旨、市当局より回答がある。初年度として、中庶子分～遠藤原線を市道20号線として、幅6m・歩道1.5mの計7.5mの拡幅舗装工事を行う。その他は予算見合いで農道等優先度の高い順で実施していく。 6月冠婚葬祭の簡素化が近年叫ばれており、土沢地区協議会の発足準備を進める案が出される。 8月25日新校舎落成に伴い、建設促進委員会が解散し、引き続き小学校の環境整備(緑化等)の充実を計るため、土屋小学校環境整備委員会が発足する。									
世界戦争 敗戦 民主国家 産業経済 高度成長 公害問題	昭和55年国勢調査による世帯数と人口 <table><tr><td></td><td>(世帯数)</td><td>(人 口)</td></tr><tr><td>土 屋</td><td>667</td><td>3256</td></tr><tr><td>上吉沢</td><td>363</td><td>1500</td></tr></table>		(世帯数)	(人 口)	土 屋	667	3256	上吉沢	363	1500
	(世帯数)	(人 口)								
土 屋	667	3256								
上吉沢	363	1500								

時代区分	土 屋 の あ ゆ み						
昭和時代 (1926～ 1988)	<table><tr><td>下吉沢</td><td>109</td><td>460</td></tr><tr><td>(計)</td><td>1139</td><td>5216</td></tr></table>	下吉沢	109	460	(計)	1139	5216
	下吉沢	109	460				
	(計)	1139	5216				
	1981年(昭和56年)1月近年東海大地震・首都圏を中心とする直下型地震等大地震の発生が予測されており、国をはじめ地方自治体において地震等の防災対策がなされている。土屋地区も自治会単位に自主防災会を組織し、住民の隣保協同の精神に基づく、自主的な防災活動を行うことにより、地震などの災害による被害を防止し、軽減を計ることとした。これに基づき防災会防災計画も作成される。						
	3月14日土屋小学校の屋内運動場兼講堂が完成し、落成式を挙げる。						
	3月土沢駐在所の駐在員が交代する。						
	4月遠藤原のごみ埋め立て処分地は、昭和58年埋め立て開始にむけて関連道路・排水施設など2ヶ年継続で7億3千万円を投じて整備する。昭和56年度は、2億1千万円で基本事業を本格的に着手する。						
	5月17日豊かな自然を背景に、地域の人たちがそろって手をつないでいこうと土屋・吉沢地区を対象とした「土沢賛歌」と題する唄の発表会と歌唱指導会が、土沢中学校で開かれる。						
	「土沢賛歌」は、老いも若きも、年代、性別を越えて一つの輪(和)を、言い換えれば「点から線へ」「線から面へ」と、親睦の輪を広めようという狙いがある。このため三番までの歌詞は、親睦・希望・連帯が柱になっている。作詩 野口一郎(平自連会長)作曲 鈴木徳一郎。						
	7月1日青少年健全育成のため、本格的な宿泊研修施設「平塚市びわ青少年の家」が、土屋2710-1番地にオープンする。						
7月土屋小学校のプールが完成する。							
9月1日県水道局平塚貯水池第2・3号貯水池が完成する。							
この頃、市道土屋18号線(小熊～長坂～遠藤原)〔約850m〕の拡幅舗装工事が行われる。							
1982年(昭和57年)7月から遠藤原一般廃棄物処分場の第1期事業が、1984年3月までの工期で始まる。							
つちや子どもの家保育園が開園する。坂元橋が完成する。							
1983年(昭和58年)							
3月29日県水道局平塚貯水池第4号貯水池が完成する・							
4月1日惣領分に新住宅が7戸できる。							
10月20日遠藤原に第3組で12戸ができる。							
下庶子分の土屋台に新住宅ができる。							
1984年(昭和59年)							
土屋小学校のPTAにより、裏山の雑木林に「りんどうコース」を造							

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
昭和時代 (1926～ 1988) 世界戦争 敗戦 民主国家 産業経済 高度成長 公害問題	成して、児童の自然体験場とする。 1985年(昭和60年)向坂橋が完成する。 土屋小学校では、野鳥観察・野鳥保護の環境づくりがさかんになる。 「小鳥がさえずる森づくり運動」により環境庁長官賞を受賞する。 1986年(昭和61年)土屋小学校では、PTAにより野鳥用水場池を完成させ、「りんどう池」と命名し、児童たちの野鳥に対するふれあい環境を一段と整備する。 芳盛寺橋が完成する。 10月1日日産車体平塚総合グラウンドが完成する。 1987年(昭和62年)1月15日松風歯科医院が開業する。 5月17日県トラック協会平塚総合運動場が完成する。 12月16日おおの歯科医院が開業する。 1988年(昭和63年)小熊に第6組で8戸ができる。 3月15日土沢中学校の第3代新校舎(鉄筋コンクリート4階建)が完成する。 9月15日食堂「ちくぜん」が開業する。 10月土屋公民館に窓口センターが開設される。
平成時代 (1988～) 環境問題 少子化・ 高齢化問題	1989年(平成元年)県道金目～松田線の歩道の設置計画が出る。 上惣領の「老人いこいの家」が「平塚市七国荘」としてオープンする。 金目川右岸の堤防改修工事が始まる。(上流へ約800m) 4月4日神奈川大学平塚キャンパスが開校する。 4月土屋交通安全協会母の会が発足する。 12月16日ゴルフ練習場「ジャンボリー平塚」がオープンする。 土屋地区に都市ガス管が設置される。(神奈川大学へ供給) これに伴い、神奈川大学から中井町間の設置工事が始まる。 1990年(平成2年)7月3日神奈川大学通り抜け道路他が完成する 8月11日従来の盆踊り大会に代わり「土屋ふれあい夏まつり」がスタートする。 湘南丘陵整備推進研究会が発足する。この研究会は、市が提唱する「平塚ばらの丘ハイテク・パーク地域整備構想」を受けて、市企画部 湘南丘陵計画室・地元14自治会・地権者などで作っている。地元の永い間の悲願であった、地域整備への気運が高まり、本研究会を中心として、自らの協力と責任によって、魅力と活気ある里づくりに取り組もうとしている。また、本構想は、土沢地区を中心とする、田園丘陵地帯の土地資源を活用した新たな地域づくりを実現しようとするもの。構想は次の3つの柱を基本としている。

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
平成時代 (1988～) 環境問題 少子化・ 高年齢化問題	①アグリ・バイオ・エレクトロニクスを軸に、研究開発機能、交通拠点、住居空間などを整備、集積し、地域産業の活性化と生活環境の向上を図る。 ②地域の優れた田園環境を尊重し、これと一体的なハイテクパークを形成するために、新しい都市機能の開発、都市基盤・集落環境の整備、優良な緑地、農地の保全について総合的に取り組む。 ③自然、社会的条件になじみ易く、地元の人々が構想推進に参加し易い、市街化調整区域における適切な地域づくりを、状況の変化に即応しながら、段階的に進めるために、「クラスター開発方式」をとる。 *以上であるが、既存の自然環境を維持しながら、地元の理解を得て、土屋らしい地域づくりをしていくのは、至難のわざと思われる。 1991年(平成3年)3月3日に大乘院水呑地蔵の「ふるさとの森」が大庶子分自治会の管理運営となる。 5月20日神奈川大学の67号館が竣工する。 7月1日平塚市中央農協が新生「湘南農業協同組合」(JA湘南)とて再スタートする。 7月19日清水建設より夏祭り用「櫓」(やぐら)が寄贈される。 9月28日熊野神社の屋根を銅板葺きに替えて「修復祭」を行う。 1992年(平成4年)2月21日老人ホーム「ローズヒル」が竣工し、披露式が執り行われる。 4月7日土屋防犯支部組織の結成総会が行われる。 4月県農業総合研究所が完成する。 5月18日地区ふれあい福祉相談会が発足する。(毎月第3月曜日) 7月1日はぎわら歯科医院が開業する。 10月15日土屋自治連主催の「土屋を考える会」の集会が開かれる 1993年(平成5年)8月22日土屋公民館建設促進委員会が発足する。 10月31日土屋小学校が創立120周年記念式典を挙げる。 12月2日土屋幼稚園が創立30周年記念式典を挙げる、「餅つき大会」を行う。 1994年(平成6年)2月20日平塚市消防第17分団に新消防車が配備され、披露会が開かれる。 3月11日土沢社会福祉協議会が、「コスモドクター」(高圧電位治療器)を公民館へ設置する。 4月土屋公民館の窓口センター業務が拡張される。 6月30日土屋橋に「ファミリーマート」がオープンする。 11月神奈川大学学園祭では、地域とのふれあいを大切にするため

時代区分	土 屋 の あ ゆ み
平成時代 (1988～) 環境問題 少子化・ 高齢化問題	に、地元の太鼓連(8団体)を招き開催される。この太鼓連参加は土屋自治連が主管となり、毎年行われるようになる。 1995年(平成7年)3月16日県水道局平塚貯水池の第6号貯水池が完成する。 1996年(平成8年)2月25日土自連はスポーツ広場の「銀杏」(いちよう)が枯死したため、「まな板」を作り地区民に配布する。 (朝日新聞に掲載される) 地区納税組合が解散する。 4月神奈川中央交通(株)が、遠藤原経由の秦野～神奈川大学路線を開通する。 妙圓寺の山門が再建される。 10月28日県水道局平塚貯水池野第7号貯水池が完成する。 11月29日寺分自治会が法人化される。 1997年(平成9年)1月12日市内一周駅伝で6位入賞となる。 1月27日土沢社協が、電位治療器「マルタカ」を購入する。 3月15日二宮金次郎の像を旧土屋小学校校庭から新土屋小学校校庭へ修復移転し、「修復を祝う会」を開催する。 3月27日平塚市は、今後15年間の埋め立て量を確保するため、遠藤原一般廃棄物最終処分場の第2期工事を竣工する。 3月30日平塚市消防第17分団の新庁舎が完成し、落成式を行う。 4月1日土屋幼稚園が2年保育となる。 4月1日寺分にさくら薬局が開業する。 ・4月1日:現在の世帯数800世帯・人口3404人(男1776人・女1628人) 5月31日ローズヒルの東の谷を埋め立てて駐車場ができる。 7月31日寺分の市道土屋3号線が改修される。 11月1日土沢中学校が創立50周年記念式典を挙行し、校歌碑を建立する。 下庶子分自治会が法人化される。 環境元年であるこの年に、字芹沢・字葉山・字石原・字源水の谷戸に、残土の不法投棄が行われる。これは、地権者(事業者)の理解不足・問題意識の不備により、埋め立て業者の不法投棄が発生するものと思われる。この問題について、自治会が一丸となって取り組み、一定の成果をおさめており、今後も自治会等で問題点を常に意識し、市当局等行政と連携を保ちながら、見守っていく必要があると思われる。なお、源水横穴古墳群は壊滅状態になる。 (朝日・読売・毎日・神奈川新聞に掲載される)

平成時代
(1988～
)

1999年(平成11年)

4月14日小熊にガーデン倶楽部(園芸用品一般)がオープンする。



土屋の里

昔は、食料も水も薪炭の類も、豊富な
桃源境でした。